

# 道德通信 かけ橋

学校・家庭・地域の心のかけ橋

龍野小学校

令和4年9月29日

NO. 3

文責：校長 大江 律子

## 感謝の心をもった龍野っ子に！

「日頃お世話になっている人に感謝すること」、感謝の心を育てる教育活動の推進を本校では行っています。よりよい人間関係を作るために互いを認め合うことが大切で、その根底には相手に対する尊敬と感謝が土台になっていると言われます。周りの人へ感謝することで、自分が大切にされていることに気づき、自分自身の自尊感情（自分が好き・大切）を高めることができると思っています。



感謝の心は、人が自分のためにしてくれていることに気づくこと、それはどんな思いでしてくれているのか知ることによって育まれていきます。

先日、PTAの愛校作業に取り組んでいただきました。次の日、運動場の写真や作業をして下さっている保護者の方の写真を紹介しました。6年生は、その後保護者の方への感謝の気持ちをまとめました。見えないところで支えてくださっている方々へたくさんの感謝の心が育っています。

(6年生の感想から)

- ・ぼくたちの最後の運動会を成功させようと保護者に方が取り組んでくれた。保護者のみなさんの気持ちを受け取って、最高の運動会にしようと思う。
- ・今まで見えなかった5コースが見えてすごくがんばってくださったんだなあと思いました。保護者の方ががんばったので、私たちも運動会を感動させるくらいがんばります。
- ・草取りをしていただいた保護者の皆さん、本当にありがとうございました。これから大事に運動場を使わせていただきます。
- ・私達のために1時間も暑い中草をとってくださったので、私もみんなのためにできることを考えて行動したいです。

## 道德科の授業紹介 第2学年「かぞくへのかんしゃ」きつねとぶどう

本資料は、山の中に暮らしていたきつねの親子の話です。子ぎつねがおなかをすかせて泣くので、親ぎつねが遠い村までぶどうを探しに行きます。ぶどうを手に入れて子ぎつねの所へ戻ろうとするが、猟師が子ぎつねを狙っているのに気づき。親ぎつねは自分の命も顧みず子ぎつねを助けます。やがて子ぎつねは成長し、ぶどうの木を見つけ、母ぎつねの深い愛情に気づく、というお話です。



保護者の方の手紙を読む2年生

最初子供たちは、「家族へのありがとう」について考えました。「ご飯を作ってくれてありがとう」「〇〇をかけてくれてありがとう」など、発表していました。教材を読み、子ぎつねの気持ちを中心に考えていきました。子供たちは親ぎつねをまっている子ぎつねの気持ちやぶどうを食べて親ぎつねのことを思い出した気持ちなどを話し合いました。はじめは、「さみしいな」「親ぎつねに会いたい」などの気持ちを発表していましたが、話し合う中で、「ぶどうの木を大切にしよう」、「助けてくれてありがとう」など感謝の気持ちに広がっていきました。

最後に、一人一人が保護者の方からの手紙を読みました。子供たちは、とても嬉しそうに読んでいました。中には、涙ぐんでいる子どもの姿も見られました。「病気の時に看病してくれてありがとう」「いつもたいせつにしてくれてありがとう」など、ありがとうの中身が広がっていました。家族のことが大好き、いつもありがとうと感謝の心があふれた道德の授業でした。

